

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・村学力調査の領域別正答率では、「情報の扱い方に関する事項」の目標値75%に対して、校内正答率50%だった。・全国学力調査の問題内容では、「話すこと・聞くこと」の全国平均正答率55%に対して25%だった。・全国学力調査の問題内容では、「書くこと」の全国平均正答率56%に対して40%だった。	
<p>2. 過大改善に向けた取り組み状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・「情報の扱い方に関する事項」については、令和5年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。・「話すこと・聞くこと」については、令和5年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。・「書くこと」については、令和5年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・情報の読み取り方の授業や調べ学習等を通して正しい情報の読み取り方を実践させている。・話し合い活動を多く取り入れ、他者の意見をメモすること、自分の意見を言葉にすることを意識させている。・たくさんの文章に触れさせ、真似させている。時間を設定して書く時間をたくさん作り、書くことに慣れさせる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ol style="list-style-type: none">①読み取ったことを端的にまとめさせる。②話し合いのポイントを考えながら実践させる。③作文を書く活動を計画的に実施し、良い作文を真似させ、型をつくっていく。	<p><検証方法></p> <ol style="list-style-type: none">①提出物②提出物、聞き取りテスト③定期テストや授業内の作文で正しく書けているか確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ol style="list-style-type: none">①重要な語句を理解し、まとめることができた。②意義のある話し合いができた。③作文をくり返し書くことで作文の型ができた。 <p><課題></p> <ol style="list-style-type: none">①不安でたくさんの文言を入れてしまうことが課題である。②話し合いが続かないことが課題である。③長い文章を書くことが課題である。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・言葉を大切にできるように指導する。・わからないことは国語辞典を使って調べられるよう指導する。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>国語に興味をもち、言葉を大切に使える生徒。 積極的に読書をして様々なことを知識として蓄えていける生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>知識を活用した表現力の向上</p> <p>例1 すべての領域において全国平均よりも上回っており、良好な状況といえる。しかし「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」の問題と「明治時代」の問題では全国平均を下回っている。 (令和7年度 小笠原村学力調査の結果 参照)</p> <p>例2 令和7年度本校教科アンケート 「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」について、「あてはまる」「だいたいあてはまる」 約50% (4名中 2名)</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>歴史的分野、特に近代から現代史の範囲の理解度に課題がある。</p> <p>例1 ・「日本国憲法」の内容について (正答率41.7% 令和5年度 村学力調査の結果 参照)</p> <p>例2 ・令和5年度本校1学年対象教科アンケート 「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」 ⇒「だいたいあてはまる」 100% (4名中 4名)</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>上記解決すべき課題に記したように、まずは知識理解を促す必要がある。そのため、以下に記す方策を実施し、「わかる」⇒「できる」という順序で授業実践を行っていく。</p>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①基礎知識を問う小テストを実施する。</p> <p>②小单元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>③後期授業評価アンケートを実施する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①テスト結果を分析する。</p> <p>②課題の評価(第二観点 A~C以下)について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析(目標値は平均値B以上)</p> <p>③後期授業評価アンケートの結果分析(目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%)</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>成果</p> <p>① 分析を行い、以下の②・③に活用した。</p> <p>② 目標値を上回った。</p> <p>課題</p> <p>③ 理解度B50%, 理解度C50% 社会的事象における理解度の向上が課題</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>社会的事象における理解度の向上を図るための、適切な課題の設定。</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>社会科への関心がさらに高まり、自ら社会的事象に興味を抱くことで、世界の課題に目が向けられるようになっている生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 数学科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

3年生の数学を見ると、全国平均を大きく上回っており、良好な状況である。特に昨年度の課題であった証明の内容については、問題文を読むという苦手意識もあり、正答率が低かった。しかし全国平均は越えることができた。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容

・1年生の数学を見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況であるが、問題の内容は、「百分率」と「面積と体積」に課題があるといえる。特に「百分率」などの割合に関する計算方法はどの単元にも必要となるため、復習が必要である。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・「展開・因数分解」の単元において、記述しながらの演習の前にクイズ形式での理解を促す計算トレーニング。
- ・関数の単元でICT機器を活用した教え合い活動。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

〈方策〉

- ①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。
- ②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。

〈検証方法〉

- ①小テスト
実施前と後に行い、定着度を確認する。
- ②ICT機器を用いた発表
発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。

4. 検証結果(成果と課題)

〈成果〉問題の意図の読み取りなど、理解が高まり、ミスが減らすことができた。
〈課題〉多数の単元を含む複合問題で混乱することが多少あることが課題である。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

複合問題では既習事項を整理し、公式や知識を正しく使う。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

中学校で習った知識を正しく使い問題解決に取り組む生徒。

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 理科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和7年度村学力調査結果より、次のことが挙げられる。

- ・「電流の性質」「電流と磁界」分野全体の正答率は50%を下回った。また「気象の観測」における気圧の計算では正答率は0%と突出して低かった。
- ・数値計算、表等の資料を読み取る問いに関しては、一般的に課題が見られる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・「水溶液の性質」「てこのはたらき」の正答率は40%を下回った。どちらも基礎知識の定着が課題である。
- ・会話文やまとめられた図、表、グラフ等の資料を読み取る問いに関しては、この単元のみならず全般的に課題が見られる。
- ・「活用」の正答率が36.7%であり、日常生活と知識の関連付けが課題である。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・「電流の正体」における数値計算は復習として、3年間の復習教材を個々の能力に応じ補充する。
- ・高校入試対策問題から思考・応用する問題演習に取り組むことで、表やグラフ等の資料を読み取る力を身に付ける。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

〈方策〉

- ① 3年間の復習教材を個々の能力に応じ補充する。
- ② 高校入試対策問題から思考・応用する問題演習に取り組むことで、活用を身に付ける。

〈検証方法〉

- ① 年間2回の授業評価アンケートの実施内容を分析する。
- ② 年間15回程度の小テストと年間4回の定期考査を実施した内容を分析する。

4. 検証結果(成果と課題)

〈成果〉

- ・実験を例とした文章問題から図、表、グラフを読み取り、読解力と表現力を高めることができた。
- ・入試対策の形式にも慣れ、知識を活用する力を身に付けることができた。

〈課題〉

身に付けた知識を活用し、理科的の専門的な用語を用いて説明する力に課題が見られた。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

基礎知識を身に付け、内容に対する自分の考えや科学的根拠に基づいてディベートを行うなど、言語活動の機会を設定することで知識の定着を図る。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

自然事物・事象に興味をもち、専門的な知識の向上にむけて意欲的に学習できる生徒。

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

授業評価アンケートの興味・関心の部分に関しては全員Aの当てはまるとなっているが、学習の理解に関する項目にはBが付けられている。実際の活動では全体として理解度も高く、前向きに学習に取り組んでいるように見られるが、表現することに対していくらかの自信のなさが見られる。特に「完璧に演奏しなければならない」といった思いが強く見られ「ここまでできた」ではなく「まだここができていない」という思いの方が強くでてしまう傾向がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

・「作曲家視点の立場にたった歌唱指導」の成果から、楽曲の歴史的背景や作曲者の思いなどを考えながら記述したり、表現したりできるようになってきている。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

・歌唱・器楽・創作・鑑賞のすべての領域において、自己評価及び次の課題を記述する活動を取り入れ、次の活動に生かす。また『できる』と判断される演奏例や記述例を適宜提示しながら、演奏発表という目標に向かって主体的、かつ計画的に学習に取り組む仕組みを作る。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①授業内の実技発表を実施する
- ②アンケートを実施する。

<検証方法>

- ①授業内での実技発表の分析
- ②授業内アンケート結果の分析

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

・自身の活動をふり返ることによって、それぞれの課題をきちんと認識し、前向きに取り組めるようになった。

<課題>

・個々の技能の向上は見られたが、アンサンブル課題において、お互いの音を聴きながら合わせる技能については課題が残った。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

・多様な音楽文化に対する理解を深め、興味をもてるための課題設定。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

生涯に渡って音楽を愛好し、世界の多様な音楽文化を理解、尊重できる生徒。

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 美術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>課題への取組の中でこれまでの経験を生かすことができないわけではないが、目の前にある課題と既習事項や経験との結びつきに自ら気づくことが難しいため、体系的にとらえる視点を身に付けていくことが課題。また、自己調整力やより汎用的な課題解決の力を磨いていくことも課題である。</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】授業評価アンケートの結果より、授業への興味・関心は高いといえるが、学習内容の理解や確実な定着については課題が見られる。</p> <p>【改善策】「表現したい」という欲求がとても強いため、どのように表現するかを深く考えさせる構成でワークシートを活用してイメージや工程を整理したり図示したりする。自身の感覚や気持ちを大切に、発想を刺激し合いながらグループでよりよい表現について考える場を設定する。</p> <p>【評価】表現活動に意欲的で授業内のすべての活動に真摯に取り組む姿勢が見られ、与えられた課題も細分化されたステップごとに解決していこうとする意識が高いため、成果が作品に顕著に表れている。また鑑賞活動がよりよい表現に結びつくという意識をもって取り組むことができおり、これらの経験が体系的に結びついてより汎用的な課題解決力を養っていけるよう意図した授業改善を継続していく。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>作品制作の中間発表とグループでの鑑賞活動を継続して行い、協働的な学びの場を設けて多面的・多角的な視点で思考する経験を積み重ねている。</p> <p>題材ごとの導入を丁寧に行い、スモールステップの設定と毎時の目標を細分化している。また、振り返りワークシートを用いて目標の達成に対する自己評価を行い、次回の自分に向けての覚え書きを残すなど、主体的に取り組みを継続できるようフィードバックも充実させながらルーティンを作り、こまめなりマインドを欠かさないようにしている。</p>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>教科横断的に既習事項を活用して構想を練り、身に付けた知識・技能を発揮しながら作品制作に取り組むことができた。また、これまでの経験を活かしながら見通しをもって課題解決に取り組み、自ら主体的に考え行動する様子が見られた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>容易に膨大な量の情報に触れることができ、生成AIを利用する場面も見られるが、情報の真偽を確かめたり精査したりする能力が弱く、学習に活かしきれないことが課題。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>課題解決等に必要な情報を収集する作業をする際には、メディアリテラシーを正しく身に付けられているか計ることや、情報を精査するトレーニングのような事前のワークプログラムの設定が必要だと考えられる。</p> <p>導入からゴールまで見通しをもつための工程表や、進捗状況の共有ができるシステムを活用することを継続する。</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>既習事項や経験を汎用的な能力として積極的に活用し、より主体的に課題解決に取り組む生徒。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 保健体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>授業評価アンケートの結果より、「教科の関心を高められているか」、「内容を理解しているか」という質問に対して全生徒が肯定的にとらえおり、授業での学びを実生活に生かしたいという意識を持ち授業に取り組んでいる。男女ともに新体力テストで全国平均を全種目上回っているが、結果を基準にしてどの単元で・実生活で、どのように生かすことができるかを深めることができていないのが課題である。</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果にある「授業で身に付けたことがどのようなときに生かされるか」という質問について、体力の向上に関する内容にとどまっており、学習内容を十分に深めることができていない。 <p>→体力やコーディネーション能力の向上を目的とした補強運動の設定や多様な運動を経験することで、バランスのよい体力の向上を目指している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストでは、全国平均を上回る種目が多かったが、握力とハンドボール投げに課題がある <p>→学習カードやICT機器を活用し、運動のポイントが視覚的に分かりやすいように工夫している。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能の習得に繋がる補強運動を設定し、単元に応じた技能の習得を目指す。 ・補強運動や学習内容を自分の目的に合わせて選択できるようにして、主体的な取り組みを促す。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。</p> <p>②単元の全体像や学ぶ内容の重要事項やポイント、前時との関係性がわかるように板書やワークシート、スライドを活用する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②スプレッドシートで授業内容の理解度を確認・分析。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>スプレッドシートやアンケートによる多角的な分析の結果、生徒自身が「何がわかって、何ができないか」を客観的に把握できるようになった。これにより、自己の課題に基づいた合理的な練習を選択する力が向上した。</p> <p><課題></p> <p>自己完結させず、互いの課題解決をサポートし合う関係性の構築が必要である。自己分析による「個」の学びから、他者の視点を介在させることで客観視能力のさらなる深化を図ることが必要である。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>相互コーチングによる練習内容の最適化。</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>他者の動きを分析・言語化することで、自身の技能習得への理解も高められる生徒。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 技術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習における課題設定と、振り返りを習慣化させることが求められる。 ・実践的・体験的な学習活動では、全ての生徒が意欲的に取り組んでいるが、知識・技能の観点で差が出てくる生徒がいる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りを家庭でできるようにする。 ・ノート、ワークシート、事前学習プリントを用いて知識の定着を図る。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りに教師がコメントを返し、授業の理解度を深める。 ・現代社会の情報に関する課題について自ら調べるレポート課題を通じ、生徒が情報社会で適切に行動できる知識を身に着けるとともに、課題解決力を高める。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②レポートを通じて社会の課題に気付き、解決できる能力を身に付けられるようにする。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②レポートを通じて社会の課題に気付き、解決できる能力を身に付けられるようにする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p>
<p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②レポートを通じて社会の課題に気付き、解決できる能力を身に付けられるようにする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>振り返りシートのフィードバックにより、生徒の記述がより技術的な根拠をもとに表現できるようになった。</p> <p><課題></p> <p>AIを活用した調べ学習では、自己の考えとAIから得た考えの整合性をとりながら、課題を解決していく活動について課題があった。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>AIの活用について後期課程1年生のレポート課題から段階を踏んで指導することで「総合的な技術の課題解決」のような抽象的な問題の解決を考えるとという高難易度の課題を達成できるように、3年間を見据えた指導を行う。</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>技術に込められた意図や願いを踏まえ、技術的な根拠を基に他者と協働しながら課題解決に取り組むことができる生徒。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 家庭科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を活用しながら、自身の考えや意見をまとめ具体的に表現すること。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>既習事項を活用しながら自身の考えを深めること」や「題材によって興味関心の差があること」が課題として挙げられる。その授業改善策として、動画などの視覚教材を活用して具体的なイメージをもたせやすくしたり、体験的な活動の機会を増やしたりすることで、既習事項を活用して考えを深めようとしたり、それぞれの題材を実生活と結び付けて自分ごととして考えようとする生徒が増えたようである。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を使用した振り返りシートを活用し、既習事項の活用を意識付けながら、授業を振り返ることができるように教師がコメントを返している。 ・既習事項をもとに、自身の考えをまとめて表現する授業内課題や、グループワークなどを通して内容の理解を深められるように指導している。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①既習事項の活用を意識付ける声掛けと個に応じた適切な支援を行う。</p> <p>②授業内での体験的な活動をまとめ、記録課題等で自身の考えを表現する機会を増やす。</p>	<p><検証方法></p> <p>①ワークシート、振り返り、授業内での課題や実習記録、年間2回の授業評価アンケート、年間3回の定期考査</p> <p>②ワークシート、振り返り、授業内での課題や実習記録、年間2回の授業評価アンケート、年間3回の定期考査</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>①既習事項を活用しながら課題に取り組んだり、振り返ったり、題材をまとめたりする姿が見られた。(授業観察、課題、振り返りシート等より)</p> <p>②自身の考えを実生活と結び付けながら表現したり、よりよい生活の実現に向けて、工夫を思考し表現したりする姿が見られた。(実習記録、課題、振り返りシート、定期考査等より)</p> <p><課題></p> <p>知識や技能の定着、実生活に結び付けて題材への理解を深めることはできたが、それを言語化したり表現したりする力に課題が残る。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実生活と結び付けながら考えるという意識をもたせ続けられるように声かけや授業外での日常の話題として取り上げる。 ・中学校での学びを活かし、高校家庭科の内容につなげられるように自身の生活を振り返る機会を増やしていく。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>常に実生活と結び付けて考え、よりよい生活の実現に向けて主体的に取り組みながら表現することができる生徒。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 外国語科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

令和7年度村学力調査結果から次のことが挙げられる。

- ・「書くこと」に関する問題で、クラスの半数は全国平均を大きく上回るが、他の半数の生徒は全校平均を下回っている。
- ・クラス全体として、「さまざまな英文の読み取り」の正答率が低く、問題の出題形式から、概要を捉えたり、対話の流れを把握したりする力がまだ十分ではない。

2. 課題改善に向けた取り組み状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・「書くこと」に関する課題として村学力調査の結果から「同調査において、「書くこと」の領域の中でも、「英作文」の正答率が70.0%と、とりわけ低い。」と記載され、方策として、「生徒用タブレット内のデジタル教科書を活用した個別学習や、互いに問題を出し合うペア活動、家庭学習での反復練習を通して新出語句や文法事項の学習を行う。」と挙げている。検証結果として「小テストで正答できた語句でも、自分のことを表現する活動においてうまく活用できない場面も見られた。」という課題が見られている。
- ・「読むこと」に関する記載なし。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・「書くこと」の活動の際に、分からない単語や表現方法が出てきた際には、調べる手立てを伝え、調べたり活用したりする時間を設ける。
- ・「読むこと」に関する活動の際には、おおまかに内容を捉えたり、細かく情報を整理したりする様々な読み方の活動を行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

〈方策〉

- ①教科書の各ユニット末についている表現活動を実践し、学んだことを活用して書く活動を設ける。
- ②読む活動の前に、読んだ後にどのような活動をするかを伝え、適切な読み方が判断できるよう指導する。

〈検証方法〉

- ①, ②ノート, ワークシートの回収

4. 検証結果(成果と課題)

〈成果〉

- ①書く活動を通して、主語、動詞の語順など基本的な文型が定着できた。
- ②読んだ後に行う活動を見通して読むことで、内容を整理しながら適切な読み方を選択できるようになった。

〈課題〉

- ・語彙の知識の定着がまだ十分ではなく、読む活動の際に分からない単語があると手が止まってしまう。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・学んだ新出語彙に繰り返し触れる機会を意図的に授業内で設ける。
- ・新出語彙を見つけた際に意味を推測する練習を授業内で行う。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

聞くこと, 読むこと, 話すこと[やり取り], 話すこと[発表], 書くことの五つの領域において、学んだことを積極的に活用し、自身の意見や調べて得た知識を英語で表すことができる生徒。